

令和 6 年度 事務事業の点検及び評価報告書

【評価内容】 評価：事業数：() = 令和 5 年度評価事業数：前年比増減

S	=	2 事業	(3)	△	1
A	=	5 3 事業	(3 5)		1 8
B	=	1 2 事業	(1 7)	△	5
C	=	2 事業	(3)	△	1
D	=	0 事業	(0)		
合計	=	<u>6 9 事業</u>	(5 8)		1 1

※ 事業数(令和 5 年度事業数：5 8 事業→令和 6 年度事業数：6 9 事業)

令和 7 年 9 月 恩納村教育委員会

1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)：平成 27 年 4 月 1 日改正)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第 26 条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年、作成し公表しておりますが、教育委員会では、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表(HP 等)するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋 平成 27 年 4 月 1 日改正

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成 20 年 4 月 1 日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は教育長を含め 5 名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常の業務については、教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から、地方公共団体の長が、議会の同意を得て任命します。委員のうち、過半数が同一政党に所属することはできません。更に、地方公共団体の長は、委員の任命に当たって、年齢・性別・職業等に偏りが生じないように配慮するとともに、保護者である者が含まれるようにしなければならないとされ、村教育委員の任命状況は、保護者1名を含めた4名となっており、年齢等に偏りが生じないように構成に配慮しております。村教育委員会は教育長と教育委員により構成される合議体です。

令和6年度の教育長・教育委員の任期期間は次のとおりです。(勤続年月数：令和7年3月31日現在)

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			初就任	勤続年月数	
教育長	宜志富清博	令和5年4月1日～令和8年3月31日	令和5年	1期2年	
委員	宇江城明美	令和4年4月1日～令和8年3月31日	令和4年	1期3年	
委員	千葉明子	令和6年4月1日～令和10年3月31日	平成6年	1期1年	
委員	吉山佳子	令和5年4月1日～令和9年3月31日	平成27年	3期10年	教育長職務代理者(平成30年10月1日付)就任
委員	比嘉律子	令和5年7月1日～令和7年6月30日	令和5年	1期1年9カ月	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜、臨時会を開催し必要事項を審議し決定しています。令和6年度の教育委員会の会議開催は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
令和6年 4月定例会	4月19日(金) 10:00～11:03	3階全員協議会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第1号 恩納村共同学校事務室設置要綱の一部を改正する要綱について 4. 議案第2号 恩納村学校運営協議会委員の委嘱について 5. 報告第1号 恩納村学校運営協議会委員の委嘱の報告について 6. その他の協議・連絡事項
5月定例会	5月22日(水) 9:00～10:41	3階全員協議会室	5人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第3号 喜瀬武原青年会館の設置及び管理に関する条例を廃止する条例に係る意見の申し出について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				4. 議案第 4 号 喜瀬武原青年会館の設置及び管理に関する条例施行規則を廃止する規則について 5. 議案第 5 号 恩納村青少年海外派遣事業実施要綱の制定について 6. 議案第 6 号 恩納村特別支援教育支援員配置要綱の一部を改正する要綱について 7. 議案第 7 号 恩納村学力向上支援員配置要綱の一部を改正する要綱について 8. 議案第 8 号 恩納村立学校給食センター運営要綱の一部を改正する要綱について 9. 議案第 9 号 恩納村教育委員会所管施設の指定管理者審査委員会の組織及び運営に関する要綱の一部を改正する要綱について 10. 議案第 10 号 恩納村公民館等施設整備事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱について 11. 議案第 11 号 恩納村公民館等施設整備事業補助金に関する事務取扱要領の一部を改正する要領について 12. 議案第 12 号 恩納村教育相談員の委嘱について 13. 議案第 13 号 恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について 14. 議案第 14 号 恩納村学校運営協議会委員の委嘱について 15. 議案第 15 号 教育財産の用途廃止について 16. その他の協議・連絡事項
6 月定例会	6 月 26 日 (水) 9:00～13:56	3 階全員協議会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 16 号 恩納村高校生通学等支援事業補助金交付要綱の制定について 4. 議案第 17 号 恩納村学校運営協議会委員の委嘱について 5. 議案第 18 号 恩納村教育委員会事務事業点検外部評価委員会の委員の委嘱について 6. 議案第 19 号 令和 5 年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について 7. 報告第 2 号 恩納村学校運営協議会委員の委嘱の報告について 8. その他の協議・連絡事項
7 月臨時会	7 月 10 日 (水) 10:00～12:02	3 階全員協議会室	5 人	1. 議案第 19 号 令和 5 年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について（継続審議） 2. その他の協議・連絡事項
7 月定例会	7 月 19 日 (金) 10:02～11:22	3 階全員協議会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 20 号 令和 7 年度から 10 年度に使用する中学校教科用図書について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				4. 報告第 3 号 令和 6 年第 3 回（6 月）恩納村議会定例会一般質問答弁について 5. その他の協議・連絡事項
8 月定例会	8 月 21 日（水） 10:00～11:55	3 階全員協議会室	4 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 2 1 号 恩納村立学校施設等の使用料に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 4. 議案第 2 2 号 恩納村体育施設等使用料徴収条例施行規則の一部を改正する規則について 5. 議案第 2 3 号 恩納村立学校施設等の使用に関する規則の一部を改正する規則について 6. 議案第 2 4 号 恩納村立学校施設及び体育施設等の団体登録に関する要綱の制定について 7. 議案第 2 5 号 恩納村人材育成のための激励金等支給要綱の一部を改正する要綱について 8. 議案第 2 6 号 令和 7 年度恩納村立安富祖幼稚園の休園の承認について 9. 議案第 2 7 号 令和 7 年度恩納村立山田幼稚園の休園の承認について 10. 議案第 2 8 号 恩納村教育支援委員会委員の委嘱について 11. 議案第 2 9 号 令和 6 年度恩納村一般会計補正予算（第 2 号）に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 12. その他協議・連絡事項
9 月定例会	9 月 20 日（金） 10:00～11:04	3 階全員協議会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 3 0 号 指定研究推進事業実施要綱の一部を改正する要綱について 4. 報告第 4 号 恩納村保育所・幼稚園の在り方に関する基本方針について 5. その他の協議・連絡事項
10 月定例会	10 月 21 日（月） 9:00～10:17	3 階全員協議会室	4 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 4. 報告第 5 号 令和 6 年第 6 回（9 月）恩納村議会定例会一般質問答弁について 3. その他の協議・連絡事項

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
11 月定例会	11 月 21 日 (木) 10:00～11:34	3 階全員協議会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 3 1 号 恩納村自治公民館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例に係る意見の申し出について 4. 議案第 3 2 号 令和 6 年度恩納村一般会計補正予算（第 5 号）に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 5. 議案第 3 3 号 令和 6 年度教育委員会職員に係る人事異動内示（案）について 6. 報告第 6 号 令和 6 年度教育委員会職員に係る併任辞令発令の報告について 5. その他の協議・連絡事項
12 月定例会	12 月 20 日 (金) 10:00～10:52	3 階全員協議会室	4 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 3 4 号 恩納村人材育成のための激励金等支給要綱の一部を改正する要綱について 3. その他の協議・連絡事項
令和 7 年 1 月定例会	1 月 21 日 (火) 10:00～11:31	3 階全員協議会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 3 5 号 恩納村立幼稚園預かり保育実施要綱の一部を改正する要綱について 4. 議案第 3 6 号 恩納村立学校給食センター運営要綱の一部を改正する要綱について 5. 報告第 7 号 令和 6 年第 8 回（1 2 月）恩納村議会定例会一般質問答弁について 6. その他の協議・連絡事項
令和 7 年 2 月臨時会	2 月 17 日 (月) 10 : 00～10 : 32	3 階全員協議会室	5 人	1. 議案第 3 7 号 令和 7 年度公立学校管理職の定期人事異動の内示（案）の承認について 2. その他・連絡事項
令和 7 年 2 月定例会	2 月 17 日 (月) 10 : 00～12 : 02	3 階全員協議会室	5 人	1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第 3 8 号 恩納村公民館等施設整備事業補助金に関する事務取扱要領の一部を改正する要領について 4. 議案第 3 9 号 恩納村自治公民館の指定管理者の指定について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				5. 議案第40号 令和6年度恩納村一般会計第7号補正予算に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 6. 議案第41号 令和7年度恩納村一般会計予算（案）に対する意見を村長に申し出るにつき意見を求めることについて 7. 議案第42号 令和7年度教育委員会職員に係る人事異動の内示（案）の承認について 8. 報告第8号 恩納村会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則の一部を改正する規則について 9. その他の協議・連絡事項
3月定例会	3月21日（金） 10:00～11:20	2階庁議室	4人	1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第43号 恩納村一時保育利用者負担軽減事業補助金交付要綱の制定について 4. 議案第44号 恩納村立学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 5. 議案第45号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について 6. 議案第46号 恩納村「ことばの教育巡回指導員」の委嘱について 6. 議案第47号 恩納村スクールカウンセラーの委嘱について 7. 議案第48号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 8. 議案第49号 万座毛整備検討委員の委嘱について 9. その他の協議・連絡事項

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
【参考】 令和 6 年度 第 1 回 恩納村 総合教育会議	5 月 22 日 (水) 10:30～12:00	3 階全員協議会室	村長 教育長 教育委員 4 名 計 6 名 (事務局) 教育委員会 6 名 総務課 2 名	説明 1. 恩納村総合教育会議について 付議案件 1. 高校通学費の一部補助について 2. 学校給食センター調理等業務委託開始について 3. 喜瀬武原幼稚園廃園・喜瀬武原小学校廃校について 4. その他情報及び意見交換
【参考】 令和 6 年度 第 2 回 恩納村 総合教育会議	10 月 21 日 (水) 10:30～12:00	3 階全員協議会室	村長 教育長 教育委員 4 名 計 6 名 (事務局) 教育委員会 6 名 総務課 2 名	付議案件 1. 恩納村高校通学費等支援事業の申請状況について 2. 沖縄県教育庁実施予定の中学生給食費半額補助について 3. その他情報及び意見交換

なお、教育委員会で令和 6 年度中に審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関	規則・規程・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
2 件	2 3 件	1 5 件	9 件	4 9 件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、学力向上やいじめ問題等の状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させ、重要事案においては、教育総合会議での報告を行っております。

令和6年度における村及び教育委員会主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
令和6年 4月 1日	役場2階会議室	令和6年度村職員辞令交付式(村辞令交付)	宜志富教育長
4月 3日	ゆうなホール	教職員等全体研修会	宜志富教育長・教育委員
4月 8日	うんな中学校	入学式	宜志富教育長（告示）・教育委員
4月 9日	安富祖小学校体育館 恩納小学校体育館 仲泊小学校体育館 山田小学校体育館	入学式	宇江城委員(告辞) 比嘉委員(告辞) 千葉委員(告辞) 吉山委員(告辞)
4月10日	恩納幼稚園 仲泊幼稚園	入園式	宇江城委員・比嘉委員 吉山委員・千葉委員
4月16日	恩納小学校	日本語初期指導教室開校式	宜志富教育長
4月30日	ゆうなホール	教職員全体研修会（自由進度学習）	宜志富教育長・教育委員
5月23日	安富祖小学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
5月24日	恩納幼稚園・小学校	学校訪問計画	宜志富教育長・教育委員
5月28日	仲泊幼稚園・小学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
5月29日	山田小学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
5月31日	うんな中学校	学校計画訪問	宜志富教育長・教育委員
6月12日	うんな中学校	未来塾開講式	宜志富教育長・教育委員
7月30日	コミュニティーセンター	自由進度学習講演会	宜志富教育長・教育委員
9月29日	山田小学校	運動会	宜志富教育長（Web）・吉山委員
10月10日	ゆうなホール	幼稚園お話・小学生童話お話大会	宜志富教育長
10月12日	コミュニティ広場	うんなまつり（オープニングセレモニー）	宜志富教育長・教育委員
10月27日	安富祖小学校 恩納幼稚園・小学校	運動会	宜志富教育長・宇江城委員 比嘉委員
11月10日	仲泊幼稚園・小学校	運動会	千葉委員
11月19日	ゆうなホール	中頭地区幼児教育研究協議会（恩納村実践発表）	宜志富教育長・教育委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
1 1 月 2 0 日	うんな中学校	SDG s パートナーシッププロジェクト発表会	宜志富教育長
1 2 月 1 3 日	山田小学校	村教科指定研究「単元内自由進度学習」報告会	宜志富教育長・教育委員
令和7年 1 月 4 日	コミュニティセンター	二十歳を祝う集い	宜志富教育長（祝辞）・教育委員
1 月 2 8 日	ゆうなホール	恩納村教育の日関連行事 第1部：表彰式 第2部：講演会	宜志富教育長・教育委員
2 月 4 日	コミュニティセンター	教職員対話型ワークショップ	宜志富教育長・教育委員
2 月 2 0 日	安富祖小学校	県研究指定「SDG s 達成に向けた教育実践」報告会	宜志富教育長・教育委員
2 月 2 7 日	うんな中学校	未来塾閉講式	宜志富教育長・教育委員
3 月 8 日	うんな中学校	卒業式	宜志富教育長（告示）・教育委員
3 月 1 7 日	恩納幼稚園 仲泊幼稚園	修了式	宇江城委員・比嘉委員 吉山委員・比嘉委員
3 月 1 8 日	安富祖小学校体育館 恩納小学校体育館 仲泊小学校体育館 山田小学校体育館	卒業式	宇江城委員(告辞) 比嘉委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
3 月 2 7 日	役場2階応接室	教職員の定年退職等に伴う感謝状贈呈式	宜志富教育長

（4）研修会・懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。

令和6年度の研修会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
令和6年4月12日	東京都	全国町村教育長会理事会	宜志富教育長
4 月 12 日	沖縄市教育委員会	沖縄県市町村教育委員会協議会幹事会	吉山委員
5 月 14 日～15 日	東京都	全国町村教育長会総会・研修会	宜志富教育長
5 月 16 日～17 日	本部町	沖縄県市町村教育委員会連合会研修会	宜志富教育長・教育委員
5 月 20 日～21 日	恩納村コミュニティセンター	九州地区町村教育長協議会理事会・視察	宜志富教育長
5 月 24 日	沖縄市中央公民館	中頭地区市町村教育委員会協議会総会・研修会	宜志富教育長・教育委員
7 月 16 日	教育長室（Zoom）	沖縄県市町村教育委員会連合会理事会	宜志富教育長

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
10 月 4 日	東京都	全国町村教育長会理事会	宜志富教育長
10 月 25 日	パレット市民劇場	沖縄県市町村教育委員会連合会研修会	宜志富教育長・教育委員
令和 7 年 1 月 16 日	恩納村役場 2 階会議室他	全国市町村教育委員会研究協議会	宜志富教育長・教育委員
1 月 17 日	沖縄市中央公民館	中頭地区市町村教育委員会協議会講演会	宜志富教育長・教育委員
1 月 22 日	総合教育センター他	沖縄県教育委員会教育長・教育委員研修会	宜志富教育長・教育委員
2 月 13 日	恩納村役場 3 階全員協議会室	沖縄県町村教育長会第 2 回幹事会	宜志富教育長

3 事務の点検評価について

令和 6 年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目とし、毎年度事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取組みは 1 年遅れになることがあります。この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとします。

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

【5 段階評価の内容】

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された令和 6 年度事務事業の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会研修事業 (親泊) No.1	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	県及び中頭地区開催の研修課題に掲げる内容を研修資料等の活用を図りながら教育施策の情報共有を図っていく。	計画された県及び中頭地区の研修会等が予定どおり開催された。県・中頭地区で提案・協議された教育課題を認識し、今後の村教育行政に活かすため研修等に参加した。	定例教育委員会の場を活用し、各研修等のテーマ毎に職員から説明を受け、村の現状を把握したうえで課題等を共有し、研修等に参加することができた。	県及び中頭地区開催の研修課題に掲げる研修資料等を活用し、教育施策の情報共有を図り、教育に対する見識を更に高める。	A	①現状の内容で継続
コミュニティ・スクール運営事業 (本山・伊佐) No.2	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に15名以内の学校運営協議会委員を配置する。	より充実した学校運営協議会が開かれるよう、管理者研修会等で研修を行い、家庭・地域との連携を図っていく。	恩納村教育ビジョンの「つながりプロジェクト」に、コミュニティ・スクール推進プロジェクトを位置づけた。	各学校において学校運営協議会を開催することができた。ただ、学校によって学校運営協議会の内容に差がある。	コミュニティ・スクールのあり方について、専門家を招聘した研修会を開催し、より充実した学校運営協議会にしていく必要がある。	A	②事業を拡大して継続
校長会・教頭会 (本山・喜久里) No.3	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。 現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	校長会と教頭会の確認事項が共通する事項が多く、働き方改革の視点から、校長会と教頭会を合同開催にすることを検討する必要がある。	校長会は毎月参集型で開催し、教頭会は7回を参集型、4回を校長会との合同によるオンライン参加とした。	教頭会を一部校長会との合同オンライン開催とすることにより、教頭職の働き方改革の一助となった。 校長会・教頭会を通して、恩納村教育ビジョンの推進を図ることができた。	教頭会については、全て校長会と合同にするなど、会議の精選を図る必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
教育相談事業 (喜久里) No.4	配慮を要する幼児・児童・生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。 学校からの派遣要請を受け、不登校児童・生徒の状況に沿った支援を実施する。	子育てに関する価値観の多様化に伴い、保護者の悩みもまた複雑化している。今後も、本事業の周知方法の工夫を図っていく。 また、支援を必要とする児童生徒に迅速かつ効果的に対応出来るよう、関係機関での組織的・協働的な実践を図っていく。	令和6年度も引き続き教育委員会ホームページだけでなく地域へのポスター掲示による広報を行った。また、6月より相談員が変更となったこともあり、各校への訪問活動を積極的に行った。 不登校児童生徒に関する情報を本村福祉課、社会福祉協議会と共有し、不登校の背景にある家庭の教育環境に関する意見交換を行い、支援の一助にすることができた。	令和5年度に続き、6年度も訪問相談が最も多くなっている。学校の相談体制の中に、相談員による支援が日常化してきているためと思われる。 今年度は、相談員が教員免許を有しているという強みを活かし、教室に入れない子ども達への学習支援も行うことができた。 【活動実績】 <相談形態>括弧内前年度比 ①来所相談 4 件 (-22) ②電話相談 5 件 (+2) ③訪問相談 77 件 (+7) ④巡回相談 11 件 (+6) <相談内容> ①いじめ 2 件 (±0) ②不登校 28 件 (+4) ③友人 7 件 (-11) ④教職員 1 件 (-3) ⑤学業・進路 17 件 (-4) ⑥家庭 16 件 (-15)	不登校率は、中学校において増加傾向にある。小学校6年時に不登校の児童が中学校入学後も登校できないケースが多い。 この傾向は、同じ家庭の兄弟姉妹ほど強く見られ、子育てや家庭教育での支援の必要性を表している。 本事業の趣旨を学校だけでなく地域や家庭にも引き続き周知し、関係各課と連携のもと、子育てや家庭教育の支援も視野に入れた展開を行う必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会学校計画訪問 (本山) No.5	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	令和5年度は、終日訪問としていたため、教職員の負担に繋がっていたところがあり、令和6年度は午前中の半日訪問にする必要がある。	今年度より、午前中の開催とした。内容については、学校説明、授業参観、意見交換・指導助言を実施することができた。	午前中の開催となり、学校職員の負担を軽減することができた。 開催時間は短くなったが、内容については充実したものとなった。	学校説明の資料について事前提出を求めているが、当日配布での対応ができないか検討が必要である。	A	①現状の内容で継続
奨学資金給付・貸与事業 (島袋) No.6	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	給付型では、高校生の応募が少なかったため、生徒や保護者への周知をしていく。 貸与型では、無利子の村奨学金を活用いただき、家計への負担が少ない形で、村民の有用な人材育成につなげたい。 また連帯保証人への通知と奨学金滞納者への督促を1年ごとに送付し、引き続き滞納整理を進めていく。	実績は右記の実績となった。 チラシを作成し中学校3年生に配布した。 1年以上償還がない奨学生68名に対し、2月に督促を送付した。滞納者の中から3月に750千円の償還があった。4月以降も償還増が見込まれる。 【給付型】 高校進学 5万円 大学等進学 県内 10万円 県外 20万円 【貸与型】 大学等進学 県内 36万円 県外 48万円 特別貸与1回に限り20万円	○給付型申し込み9件のうち9件の給付を決定した。 県内4件 400千円 県外5件 1,000千円 ○高校生給付型奨学金の申し込み7件のうち、7件350千円の給付を決定した。 高校7件 350千円 ○貸与型奨学金申込28件のうち26件の貸与を決定した。(内2件辞退) 県内17件 6,120千円 県外9件 4,320千円 前年度比840千円減 特別貸与8件 1,600千円 償還額 7,336千円 前年度比3,748千円減 寄付金 6,600千円	給付型では、高校生の応募増となった、引き続き生徒や保護者への周知をしていく。 貸与型では、無利子の村奨学金を活用いただき、家計への負担が少ない形で、村民の有用な人材育成につなげたい。 引き続き、連帯保証人への通知と奨学金滞納者への督促を1年ごとに送付し、滞納整理を進めていく	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
キャリア教育事業 ・職場体験学習 ・職場見学 (喜久里) No.7	児童生徒を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	職場体験で希望する職業に偏りがみられ、開拓後、断る事業所があった。 Society5.0 への移行に伴い、新たな職業観・勤労観の育成に向けたキャリア教育が求められる。	職場体験については、令和5年度3月に生徒への希望調査を行い、調整を行った。 地域コーディネーターが、学校の要望に応えるだけでなく、地域から学校へ職業人を紹介することで、新たな職業観・勤労観の育成も行うことができた。	中学校では、22事業所、計84名の生徒が、職場体験を行うことができた。体験先に、OIST や JAXA などの学術機関もあり職業観の変化に対応している。小学校では、職業人講話を実施しており、令和6年度は、教育ビジョン関連でキャリア教育につながる内容の実施が見られた。	各校の SDGs や教育ビジョンの取組を通して、新たな職業観や勤労観が徐々に育まれている。引き続き、事業所リストを更新しつつ事業の充実に取り組んでいく。	A	①現状の内容で継続
幼稚園教諭研修会 (本山・與那覇) No.8	村内2幼稚園教諭の資質の向上を図る。 幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	本務職員だけでなく、会計年度任用職員の研修会が必要である。 県指定幼児教育研究協議会の発表に向けた計画的な取り組みが必要。	主幹教諭研修会、会計年度任用職員研修会を開催した。 恩納幼小、仲泊幼小の実践と、恩納村全体の幼児教育推進についての研究成果を中頭地区幼児教育研究協議会において発表することができた。	主幹教諭研修会において、業務等の確認、園運営についての認識を深めることができた。 会計年度任用職員研修会において、各自の実践を振り返り、共有を図ることができた。 実践研究により、幼小の相互理解が深まり、架け橋カリキュラムの開発に向けた取組を推進することができた。	引き続き、主幹教諭研修会、会計年度任用職員研修会を実施し、幼児教育の質の向上を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
幼稚園管理備品・ 保育振興備品整備 事業 (與那覇) No.9	幼稚園教育に関する 備品及び保育環境の充 実を図る。	休園している園及び 各園の備品台帳の整 理、備品の移管・廃棄、 こども園移行を踏まえ た備品の整備を行う必 要がある。	各幼稚園にてヒアリン グを行い、優先備品を確 認し整備した。 休園している幼稚園か ら移管を行い、経費節減 を努めた。 幼稚園教諭と連携し、 各園及び休園している幼 稚園の幼稚園備品の廃棄 作業を行った。	各幼稚園計画どおりの 備品整備を図ることが できた。 予 算 218,000 円 執行額 217,063 円 【参考】 ○恩納幼稚園 ・ポータブルワイヤレ スマイク ○仲泊幼稚園 ・一輪車ラック ・ステップなわとびポ ールスタンド	こども園移行に よる統廃合に伴 い、村立幼稚園の 備品廃棄について は、幼稚園教諭と 連携し計画的に実 施する。 備品移管について は、跡地利用も含 めて、協議する必 要がある。 また、小中学校や 福祉課と連携し、 備品の利活用に努 める。	A	②事業規模を 縮小して継続
幼稚園教育の推進 (本山・與那覇) No.10	幼児教育施設の自然 環境・人的環境を生かした 特色ある幼児教育活 動を実施する。	保・幼・小連携協議会 を年度初めに開催し、 計画的で持続的な幼児 教育推進体制を整備す る必要がある。	年度初めに「保・幼・小 幼児教育推進協議会」を 開催し、今年度の計画を 確認した。(参加：村内幼 児教育関係者、小学校関 係者、福祉課、教育委員 会) 【取組内容】 ・小学校での「スタートカ リキュラム」「自由進度学 習」の授業公開 ・幼稚園・保育所等の公開 保育 ・合同研修会（2回開催） ・アプローチ・スタートカ	教育委員会と福祉課の 連携体制が構築できた。 授業公開・保育公開、 合同研修会等を通して、 保育者、小学校教諭の相 互理解が深まり、参観後 に振り返ることで各自 の保育や授業を見直す ことにつながった。 村内幼児教育施設全体 で「こどもは有能な学び 手である」をベースに恩 納村教育ビジョンの推 進につなげることがで きた。	更なる幼児教育 の推進に向けた研 修内容の充実を図 り、持続可能な研 修体制を構築する ために幼児教育セ ンターを設置する 必要がある。 恩納村教育ビジ ョンにつながる、 恩納村保育ビジョ ンを作成する。	A	①現状の内容 で継続

			リキュラム検討会				
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
教育振興備品整備 事業 (伊佐、島袋、玉城香) No.11	学校の要望に基づく 教材備品を拡充するこ とにより、効果的な学習 が行えるようにする。	引き続き、教育振興 における備品の整備及 び活用に向けてのサポ ートを行う。	ICT 支援員配置を外部 委託し、組織として ICT 支 援員を支援する体制を構 築した。ICT 支援員を中学 校に1名常駐20日勤務、 4小学校に4名配置し、月 10日支援員を配置した。 支援員が不在のときでも コールセンターを利用 し、保守業者との連携を 図り、児童・生徒、教員に 対して整備した情報機器 を活用できるようにサポ ートした。	令和6年度全国学力・ 学習状況調査児童生徒 質問紙によると「5年生 までに受けた授業で、PC などの ICT 機器をほぼ 毎日活用した」【村： 41.6% 県：27.3%】中 学「1,2年生のときにう けた授業で、PC などの ICT 機器をほぼ毎日使用 した」【村：73.1% 県： 37.8%】となった。	引き続き、教育 振興における備品 の整備及び活用に 向けてのサポート を行う	S	②事業を拡大 して継続
就学支援事業 (玉城香) No.12	生活保護世帯・非課税 世帯・ひとり親世帯や一 定の所得基準未満のご 家庭の児童生徒に対し、 修学旅行費や学用品費 等を援助し、教育の充実 を図る。	コロナウイルス感染 症拡大による影響に引 き続き、世界的な情勢 悪化による世帯の収入 減の状況等も踏まえ認 定事務を行う。	急な収入減でお困りのご 家庭や、認定されるかわ からないから申請しにく いというご家庭も安心し てご相談いただけるよう に、案内文に「仕事をやめ られた方や多子世帯の方 などもお気軽にご相談く ださい」という具体的な 文言を追加して、お電話 等で詳細を伺い認定に繋 げた。また、申請状況等が 第三者に漏れることを防	事業運営を保護者目線 で見直し、受け入れや すく活用しやすい事業 を目標に取り組んだ結 果、認定児童生徒の割 合は3割超えとなっ た。 ○認定児童生徒数 (3月末時点) ・R6：316名 ・R5：282名 ○認定児童生徒割合	学校の保護者連絡 ツールや広報・ LINE 等で年3回 の周知を引き続き 行い、SSW や福祉 課等と連携して援 助が必要な世帯を 把握する必要がある。 令和7年度から オンライン申請を 開始するが、情報 管理を徹底する	A	①現状の内容 で継続

			ぐため、オンライン申請を取り入れる準備を行った。(R7年度から実施)	(3月末時点) ・R6 : 32.6% ・R5 : 28.7%	等、保護者の不安感を取り除けるような事業運営を行う。		
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
スクールカウンセラー設置事業 (喜久里) No.13	幼児児童生徒の不登校及びいじめその他の問題行動の未然防止、早期発見及び早期解決を図るため、高度な専門的知識及び経験を有するスクールカウンセラーを設置する。	保護者が抱える問題が多様化しており、教職員の専門機関・専門職へつなげる力の育成が一層重要となっている。教職員への研修を充実させる必要がある。 今後も、SC、SSW、福祉課等、関係機関との連携強化を図りつつ、本事業を効果的に展開していく。	SSWや養護教諭が担任と積極的に連携し、スクールカウンセラーを活用するケースが多く見られた。 また保護者から学校へ子どもの心理面での相談もありスクールカウンセラーの専門性を活かすこともあった。 引き続き、教職員の研修の充実を図り、チーム学校の一員としてのスクールカウンセラーの活用を推進して行きたい。	全国的に不登校児童生徒数が過去最高となり、喫緊の課題となっている。恩納村では、スクールカウンセラーの積極的な活用を図ることで一定の効果が得られている。 R5年度→R6年度 (R7.2.2現在) <いじめ> 小 : 8名→4名 中 : 1名→2名 <不登校> 小 : 11名→10名 中 : 6名→16名	小学校で不登校が解消せず、中学校入学後も登校できず不登校になるケースが多くなっている。養育や家庭教育で悩む保護者をスクールカウンセラーにつなげるなど、組織的な連携を図っていききたい。	A	②事業を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
特別支援員配置事業 (伊佐) No.14	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援する。	慢性的な人手不足による支援員の不足が生じないように、人材確保する必要がある。	ハローワークや学校へ依頼し、求人募集を行い人材確保に務めた。 幼稚園6人、小学校13人、中学校3人配置することができた。	保護者アンケートから変化や成長がみられたとの回答が目標の80%以上を上回る90%であったことから、支援員の資質向上が図られている。 令和6年度より個別面談を行い、次年度への人材確保へつなげることができた。	慢性的な人手不足による支援員の不足が生じないように、人材確保する必要がある。 支援員の資質向上を図るため、研修を実施する。	A	①現状の内容で継続
英語指導助手派遣事業（ALT） (喜久里・伊佐) No.15	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	ALT 経験のある人材を雇用できるよう、早期に人材確保を図る必要がある。	中学校に1名、小学校に2名合計3人のネイティブスピーカーを配置することができた。	児童生徒へ英語でのレクリエーション等を通して、英語の楽しさを体験させることができ、また、英語での表現力の向上を図ることができた。 令和6年度より個別面談を行い、次年度への人材確保へつなげることができた。	児童生徒の興味、関心をもってもらうような授業づくりやネイティブスピーカーを活用した授業構成を図っていく必要がある。	A	① 現状の内容で継続
対外競技派遣及び中学校部活動支援事業 (島袋) No.16	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	部活動の活躍が見られるようになった。部活動の振興が図れるよう、引き続き適宜予算確保を行う必要がある。県外派遣について一括交付金を活用する。	適宜予算の確保ができ、大会参加費、登録料等は支出できたが、今年度は、優勝、準優勝、1位、2位になった部活がなく、派遣者および団体はなかった。	県外派遣費 ○派遣対象者、団体なし 執行額：0円 県内派遣費 ○派遣対象者、団体なし 執行額：0円 大会参加費及び登録料等	部活動の活躍が見られるようになった。部活動の振興が図れるよう、引き続き適宜予算確保を行う必要がある。県外派遣について一括交付金	A	①現状の内容で継続

				執行額：665,872 円 部活動に必要な消耗品等の予算の確保、執行に努め、部活動消耗品等の充実が図られた。 執行額：529,993 円	を活用する。		
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
諸検査事業 ・知能検査 ・進路適正検査 ・i-check 調査 ・総合学力調査 ・中3学力調査(喜久里) No.17	児童生徒の学力の定着状況や学習状況等を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	AI ドリルの AI 機能が充実にしてきた。授業の形態や家庭学習の連動等の工夫を図りつつ、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成につなげていきたい。	小中ともに総合学力調査を取り入れ、結果の反映による個別のドリル化に取り組んできた。 また、業者との連携をはかり、各月ごとの AI ドリルの使用状況の把握と各校への情報提供を行うことができた。 管理職研修会では、新機能の紹介や機能拡充について触れ、更なる事業の充実に努めた。	各校で取り組んでいるマイプラン学習の中に、AI ドリルを組み込むケースが多く見られるようになっている。 また、夏季休業で、AI ドリルを宿題とし、学校のスペースを開放し、自由に学ぶ環境を提供する学校も出てきた。主体的に自らの課題の克服に向けて取り組むことで、自律した学習者の育成の一助となっている。	諸検査については、全ての学校で有用性を実感している。現行の調査だけでは、認知的な側面を把握することができず、つまずきのある児童生徒への支援に課題が残る。学校現場の声を参考にしつつ認知能力検査の導入を検討する必要がある。 令和7年度より小6年生で総合学力調査を導入する。中学校期につなぐ学力推移を把握し授業改善に活用していきたい。	A	②事業を拡大して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
指定研究事業 (本山) No.18	特色ある学校づくり 及び学力の向上を目指 し、教科・領域指定及び 皆泳指定研究をする。	「恩納村教育ビジョ ン」に基づく研究推進 を図る必要がある。そ のために、伴走型の学 校支援を充実させる必 要がある。	指定研究校の山田小学 校に対し、公開授業・研究 発表会に向け、校内研修 の支援や、県外研究者か らの支援をつなげるこ とができた。	11月に山田小学校 の公開授業・研究発表会 を開催することができ た。村内外から多数の参 観者が訪れ、公開授業と 研究発表の内容に対し 高い評価を受けた。	山田小学校の実 践を村内学校へ共 有し、令和7年度 指定校の安富祖小 学校への支援を充 実させる。	A	①現状の内容 で継続
小中学校施設整備 事業 (當山) No.19	学校施設の長寿命化 を図り長期にわたり良 好な教育環境を確保す る。	山田小学校のプール 改築工事を完了させ、 既存プールの解体工事 を発注する。山田小学 校歩道側の擁壁工事を 発注する。	山田小学校のプール改 築工事を進めた。旧既存 プールの解体工事を発注 した。山田小学校歩道側 の擁壁工事を発注した、 資材の工場制作に時間を 要した為進捗が遅れた が、安全対策に注意しな がら工事を進めた。	山田小学校プール改 築工事を完了させた。旧 既存プールの解体工事 を完了させた。山田小学 校の擁壁工事を発注し た。	山田小学校の擁 壁工事を完了させ る。安富祖小学校 の駐車場舗装工事 を発注する。	B	①現状の内容 で継続
学校施設維持管理 事業 (當山) No.20	学校施設及び消防用 設備を適切に維持管理 し修繕する事で、安全で 快適な教育環境を確保 する。	各小学校の老朽化し た建築物及び空調設 備、消防用設備の修繕 を行う。	予算及び優先順位等 を考慮し、修繕を行い、教 育環境の維持管理に務め た。 【令和6年度】 施設修繕費：19,853 千円 (前年度：21,885 千円)	各小中学校の保守点 検、消防用設備・空調設 備・衛生設備等 93 件(前 年度：92 件)の修繕を実 施した。	各小学校の老朽 化した建築物及び 空調設備、消防用 設備、衛生設備等 の修繕を行う。	B	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
うんな中学校SDGsプロジェクト (伊佐・島袋) No.21	少子高齢化や観光消費額の減少など地域の課題を解決するため中学生を中心にSDGsの取組と連携した活動を実施する。 中学生が地域の課題解決に関わって成功体験や活性化に貢献する喜びなど質の高い教育を提供する。 この活動はSDGsと同じ2030年まで継続する。	協力企業との連携もあり、早い段階で学校と調整し、課題、テーマ設定が必要である。 プロジェクトが2030年まで継続するため、関係機関との連携がスムーズに行くよう、コーディネーター業務の外部委託を検討する必要がある。	社会、環境、経済という3つの柱を軸に、生徒からの希望を聴取し、事業を進めることができた。 事業スケジュールの概要は前年度から組み立てることができ、企業や関係各課及び関係機関の協力のもと、事業を展開することができた。	学級の枠を越えて、希望するテーマでグループ分けを行った。「社会」をテーマにしたグループでは、「多様性」について学習し、未来の恩納村を創造し、マインクラフトで表現することができた。「環境」をテーマのグループは、赤土対策の出前授業を小学校で行い、人型ロボットを講師として動作させるプログラミングを行った。 「経済」をテーマにしたグループでは、古紙リサイクルのシステムを学び、実際に中学校で令和7年度実践していくことになった。	協力企業との連携もあり、早い段階で学校と調整し、課題、テーマ設定が必要である。 また、協力企業からの応募が少なくなっている為、プロジェクトが2030年まで継続するため、関係機関との連携がスムーズに行くよう、コーディネーター業務の外部委託を検討する必要がある。	A	②事業を拡大して継続
高校生通学等支援事業補助金(新規) (島袋) No.22	恩納村から村外の高校に通学する高校生を持つ村在住の保護者に対し、高校通学等に係る経済的負担の軽減を図る目的として支援する。 居住する行政区から高校までの距離に応じ、月額2,000円から月額		職員の増がないままの新規事業で、恩納村の独自支援のため、各業者にもシステムがなく、いかに効率的にできるか補助金の流れを考え、システム構築をした。 新規事業になるため周知も、各媒体(広報、防災無	【前期・後期支援人数】 延べ188名 10,058千円	引き続き、各媒体で周知する。 また、令和7年度高校生になる、令和6年度中学校3年生にチラシを作成しスクリレで周知した為、申請者が増となる見込	S	②現状の内容で継続

	14,000 円を上限に補助する。		線、区長常会、村HP、LINE、QABデータ放送、新聞(メディア取り上げ))で行った。 新規事業の為、前期受付終了後も前期分を受付し助成した。		みである為、準備を進めていく。		
--	-------------------	--	--	--	-----------------	--	--

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
青少年団体等活動 助成事業 (4団体) (漢那) No.1	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等をとおして、健全な青少年の育成を図る。	引き続き当該事業についての周知を図り、当初予定の4団体の助成に努める。	村内の青少年スポーツ団体・文化団体に対し助成募集を行い、申請方法も書類やWEB上のフォームから申請することができるよう改め、申請者の事務負担軽減を図った。	各団体へ募集を行い、4団体への助成となった。 【前年度実績】 青少年スポーツ団体：1団体 【本年度実績】 青少年スポーツ団体：3団体 (コーラルビレッジスポーツクラブ、仲泊男子ミニバスケットボールチーム、恩納シャトル) 村内子ども会：1団体 (前兼久子ども会)	引き続き当該事業についての周知を図り、前年度から1団体増の5団体の助成に努める。	A	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業 (漢那) No.2	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。 (アメリカホームステイ) 中高校生対象：8名	為替レートの変動に伴う物価上昇の影響による事業費の増大により、生徒の負担が大きくなっていることから、派遣生徒の自己負担額について検討する必要がある。	要保護・準要保護世帯の生徒については自己負担なしで派遣がなされる旨を近隣の高校やうんな中学に周知し、応募者の確保に努めた。	前年度から派遣される人数が2名増の8名となったが、派遣人数を上回る応募があり、定員の8名の生徒をアメリカ合衆国に派遣することができた。	為替レートの変動に伴う物価上昇の影響によるものと思われる事業費の増大により、生徒の負担が大きくなっていることから、引き続き派遣生徒の自己負担額について検討する必要	A	①現状の内容で継続

					がある。		
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
自然生活体験学習 「サバイバルキャンプ」事業 (漢那) No.3	自然生活体験で自然にふれあうことにより、自然に親しみ、仲間と協力することをとおして社会性を身につけ、また、生活に必要な基礎的スキルを身につけ、自立を促し健康で心豊かな青少年の育成を図る。	年々小学生の参加が減っていることから、各地域の子ども会と連携し、参加児童の確保に努める。 また村当局と連携して、引き続き運営スタッフの確保に努める。	事業実施前の事前研修やサバイバルキャンプ本番にも多くのジュニアリーダーの参加があった。	大きな事故もなく事業を実施することができた。 【サバイバルキャンプ 応募者】 (前年度) ジュニアリーダー：25名(20名) 小学6年生：21名(23名) 【田植え参加者】 ※前年度は天候不良のため中止 ジュニアリーダー：19名(0名) 小学6年生：3名(0名)	暑さで体調を崩す子もいたことから、参加者の体調管理に十分気を配る必要がある。また村当局と連携して、引き続き運営スタッフの確保に努める。	A	①現状の内容で継続
二十歳を祝う集い 事業 (漢那) No.4	二十歳を迎える青年の新たな門出を激励すると共に、社会人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。	昨年度に引き続き、式典開始前にアトラクションが実施できるよう村青年団協議会と連携を図る。	村青年団協議会と連携し、式典開始前にアトラクション(会場内フォトブース設置・撮影写真プレゼント)を行うことができた。	出席者の大きな問題行動もなく安全に事業を実施することができた。 【実績】 該当者：108名 (前年度 118名) 参加者：82名 (前年度 83名) 参加率：75.9% (前年度 70.3%)	昨年度に引き続き、式典開始前にアトラクション等が実施できるよう対象者及び村青年団協議会と連携を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
社会教育教室 (うんな大学) 予定：全4講座 実績：全5講座 (漢那) No.5	本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の意識向上の機会とする。	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえた、魅力ある講座の企画・開催に努める。	村民から開催要望のあった講座を実施した。	健康マージャン講座は受講者からも好評で、講座終了後も参加者が自主的に集まる動きがあり、しまくとうばサークルに引き続きサークルにつながりそうである。 【実績】 ・健康マージャン講座 全10回・延べ90名 ・恩納村の戦争を知るフィールドワーク 全3回・延べ25名 ・島くとうば講座 全8回・延べ90名 ・ライフプラン講座 全1回・延べ8名 ・消しゴムはんこづくり講座 全1回・延べ10名 【前年度実績】 ・恩納村の戦争を知るフィールドワーク 全3回・延べ17名 ・島くとうば講座 全10回・延べ91名 ・子どもプログラミング教室 全2回・延べ20名 ・ライフプラン講座	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえた、魅力ある講座の企画・開催に努める。	A	①現状の内容で継続

				全1回・延べ8名			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
いきいき女性教室 予定：全1講座 実施：全1講座 (漢那) No.6	学習機会を通して資 質や技術の向上を図 り、女性の地域づくり への参加を推進する。 併せて、受講を機に地 域でのサークル活動に 繋げ、生涯学習啓発の 場とする教室を開催す る。	引き続き今後も村民 の学習ニーズを踏まえ た、魅力ある講座の企 画・開催に努める。	村民から開催の要望の あった講座を実施した。	いずれの講座も参加 者から好評であった。 【実績】 ・沖縄のハーブ講座 全3回・延べ36名	引き続き今後も 村民の学習ニーズ を踏まえた、魅力あ る講座の企画・開催 に努める。	A	①現状の内容 で継続
地域リーダー研修 予定：全1回 実績：全1回 (漢那) No.7	組織づくり支援・地域 交流活性化支援・リー ダー人材育成支援・就 業意識向上支援	村PTA連合会や子ど も会などの関連団体と 連携し、ニーズを踏まえ た講座の企画・開催に努 める。	年度初めの津波警報発 令に伴う混乱により、防災 に係る意識が高まってい ることから、県外大学で防 災に係る研究を行っている 研究者を招き、講演会を 実施した。	行政区関係者をは じめとした村民を対象 に防災に係る講演会を 開催した。 【実績】 ・恩納村の地域防災講演 会 81名参加	引き続き村PTA 連合会や子ども会 などの関連団体と 連携し、ニーズを踏 まえた講座の企画・ 開催に努める。	A	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
楽しく子育て教室 予定：全1回 実績：全1回 (漢那) No.8	子育てに必要な生活習慣の大切さを学び、家庭教育の基礎づくり・仲間づくり・親子のふれ合いや絆を深める場とし、子育てに悩んでいる受講生間の交流の場とする。	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえ、魅力ある講座の企画・開催に努めるとともに、男性の参加も積極的に呼びかける必要がある。	村民から開催要望のあった講座を実施した。	参加者から好評であった。 【実績】 ・さらしおんぶ講座 全2回・延べ12名 (うち男性参加者0名) 【前年度実績】 6回：42名(延べ) (うち男性参加者0名)	引き続き今後も村民の学習ニーズを踏まえ、魅力ある講座の企画・開催に努めるとともに、男性の参加も積極的に呼びかける必要がある。	B	①現状の内容で継続
公民館講座 予定:全6講座開設 実績:全2講座開設 (漢那) No.9	多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、各字公民館の協力を得て、地域住民に対して学習機会を提供するとともに、地域における指導者の養成を図る。	年々開設を希望する行政区が少なくなっていることから、積極的に講座開設を呼びかけるとともに、村へ提出する書類が煩雑との声があることから、提出書類を見直し事務負担軽減に努める必要がある。	申請方法については書類やWEB上のフォームから申請することができるよう改め、申請者の事務負担軽減を図った。	新型コロナウイルス感染症により講座開設が中断していた行政区もあることからか、講座開設申請及び開設が3団体にとどまった。 【実績】 ・恩納公民館講座 全10回:延べ113名 UVレジンアート・PPバンド バッグ・盛花教室 ・南恩納公民館講座 全10回:延べ94名 琉球芸能・エイサー講座 ・安富祖公民館講座 全5回:延べ35名 スマートフォン講座 【昨年度実績】 ・2公民館・延べ199名 ・梅干し・ハンドメイド教室	年々開設を希望する行政区が少なくなっていることから、積極的に講座開設を呼びかける。	C	①現状の内容で継続

				・三線教室			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
人材育成激励金 支給事業 (漢那・渡久地) No.10	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	引き続き事業周知の徹底と対象者を把握するとともに、請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。	事業周知のためホームページ掲載を行い、申請があった際は速やかに事務手続きを行うとともに、申請様式を押印不要なものに改めるなど対象者の負担軽減に努め、申請数と予算現額を調整しながら予算確保にも努めた。	○スポーツ面(前年度) スポーツ競技は91件の支給があった。(前年度110件) ・ソフトボール 学生:17件(11)、一般:15件(24) ・バドミントン 学生:13件(18)、一般:5件(10) ・野球 学生:4件(4)、一般:0件(0) ・空手 学生:1件(4)、一般:0件(0) ・トランポリン 学生:1件(1)、一般:0件(0) ・陸上 学生:6件(1)、一般:0件(0) ・グラウンドゴルフ 学生:0件(0)、一般7件(8) ・バレーボール 学生:5件(5)、一般0件(2) ・ボウリング 学生:0件(4)、一般1件(1) ・卓球 学生:0件(0)、一般5件(5) ・ソフトバレーボール 学生:0件(0)、一般7件(0) ・自転車	引き続き事業周知の徹底と対象者を把握するとともに、請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。	A	①現状の内容で継続

				学生:4件(0)、一般0件(0) ○文化面(前年度) 文化面は1件(ピアノ) (前年度:2件)			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
各種団体への活動支援 (漢那) No.11	社会教育分野で活動する各種団体に対し補助金を交付し、その活動を支援することにより社会教育活動の振興を図る。	引き続き各種団体の活動を継続して支援する。	今年度も各種団体の総会や事業へ参加し、年間の事業活動の把握に努めるとともに、必要に応じて指導・助言を行った。	各種団体の事業実績に基づき精査して補助額を確定した。 ○青少年健全育成協議会 4,188,000円(決定額) 4,188,000円(確定額) ○子ども会育成連絡協議会 1,910,000円(決定額) 1,910,000円(確定額) ○PTA連合会 1,585,000円(決定額) 1,585,000円(確定額) ○女性会 1,000,000円(決定額) 1,000,000円(確定額) ○青年団協議会 443,000円(決定額) 443,000円(確定額)	引き続き各種団体の活動を継続して支援する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
文化情報センター 業務 (呉屋) No.12	文化情報センターの運営に必要な事務を行うとともに、住民に対し、図書や資料を通じて情報提供サービスにとり組み、読書活動を推進し村内外の様々な情報を提供する。	①友好図書館である石狩市民図書館との情報交換及び交流を続ける。両市村の情報発信に努め、対面交流の再開についても協議する。 ②村民の要求や時事的話題に留意し蔵書構築に努める。寄贈図書の整理及び洋書登録を進め、書庫を有効的に活用し、開架書架の魅力的なレイアウトに努める。 ③村内利用者の拡充	①友好図書館(石狩市民図書館)との交流として、資料を相互寄贈し、お互いの地域についての関心を深めた。 ②継続的に資料の購入・収集、登録に取り組んだ。 ③継続的な本の特集コーナー等の設置や関係機関と連携したイベント等の実施に取り組んだ。ホームページやSNSでの情報発信に取り組んだ。	① 石狩市関連本 354 冊(前年度 310 冊) 今年度の登録 30 冊 広報の相互寄贈と登録を行いお互いの情報発信の周知協力をした。 ② 年間増加冊数 6,306 冊 (前年度 6,484 冊) ③入館者数 76,144 人 (前年度: 69,854 人) 貸出人数 30,480 人 (前年度: 30,206 人) 貸出冊数 110,012 冊 (前年度: 113,023 冊) 登録人数 1,073 人 うち村内 342 人 (前年度: 1,096 人) うち村内 297 人 予約件数: 1,291 冊 (前年度: 1,102 冊)	①友好図書館である石狩市民図書館との情報交換及び交流を続ける。友好図書館 10 周年を記念した催しを開催する。 ②村民の要求や時事的話題に留意し蔵書構築に努める。寄贈図書の整理を進め、書庫を有効的に活用し、開架書架の魅力的なレイアウトに努める。 ③村内利用者の拡充	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
		④時事的話題にも留意し、住民の生活に役立つ情報を提供し、新たな情報への関心を高め、住民自身の調べる力や情報リテラシーを高める行政情報提供にも力を入れる。 ⑤村の動向に留意しサンゴの村宣言やSDGs関連の取り組みの周知に努める。サンゴの絵本の活用を促進する。	④各種イベントの実施や図書の特集コーナーの設置に取り組んだ。 ⑤サンゴ関連事業として、イベント「ビーチクリーンして話し合おう!」「サンゴのカルタ大会」を行った。企画課とのコラボ展示2回。	蔵書累計冊数：120,626冊 前年度：(114,320冊) 開館日数：275日 (前年度274日) ④本の特集 「ブックポートレート展」 「まんぷく文庫」など 他101テーマの展示を企画実施 イベント 「名取佐和子講演会 物語が紡ぐ力」他 合計37個のイベントを実施 (参加延べ人数953人) ⑤絵本 売上冊数：364冊 売上収入：314,776円 かるた 売上点数：36点 売上収入：27,885円	④時事的話題にも留意しつつ、行政情報提供にも力を入れる。住民自身の調べる力や情報リテラシーを高める。 ⑤村の動向に留意しサンゴの村宣言やSDGs関連の取り組みの周知に努める。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
	暮らしに役立つ参考業務	⑥レファレンスの周知及び関連機関との連携	⑥レファレンスの周知とレファレンス協同データベースへの参加	⑥レファレンス協同データベースの事例登録が多かったことで国立国会図書館より礼状を6年連続で授与された。県内市町村でトップの登録 事例登録 100 件 パースファインダーの作成 3 テーマ	⑥レファレンスの周知及び関連機関との連携。共同データベースへの登録		
	子どもの読書活動推進事業	⑦企画展示やイベントを通して、コンクールの周知に努める。	⑦読書通帳機などを活用し読書推進を行なった。 沖縄県内で唯一調べる学習コンクールを実施している。	⑦読書通帳：91 名発行（累計：1198 名） 販売 54 冊 9180 円 図書館を使った調べる学習コンクールで第5 回地域コンクールを開催 応募総 8 作品 ・毎週土曜日の定例おはなし会年 42 回、赤ちゃん向けおはなし会「おひぎでだっこ」10 回、朗読サークル ぼ～のさんによるイベントおはなし会年 3 回。 ・「えいごでおはなし会」毎月第 3 土曜日開催年 10 回。	⑦読書通帳機の利用促進。企画展示やイベントを通して、コンクールの周知に努める。		

(3) 社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
各種社会体育事業の 充実 (渡久地) (ウォーキングフェ スタ) No.1-1	村民に対し、スポー ツをする機会を提供 し、健康増進と相互の 親睦を図る。	新たなウォーキング コースで実施したとい うこともあり、参加者 からトイレ設置等の要 望があった。	指定お手洗いを恩納小 学校、ゆうなホール、万座 毛とした。 参加者の安全管理の為ウ ォーキングコースの確認や、当日 の係員配置、スポーツ推進 委員の役割分担を行った。	昨年度と同様、産業 まつりとの同時開催で 実施し、健康増進の意 識高揚につながった。 ウォーキングフェスタ 参加者：136名	令和6年度は出 発式前に大雨が降 り、参加者が雨宿り する場所が無かつ た為、関係課と調整 してテント等の準 備をして改善する。	A	①現状の内容 で継続
(スポーツ教室) No.1-2	村民に対し、スポー ツをする機会を提供 し、ニュースポーツ体 験や健康運動指導、交 流をとおして健康増進 を図る。	事業を継続しアンケ ート調査の結果を踏ま え、開催時期やメニュ ーを講師やスポーツ推 進委員と検討し実施す る。	夜間に教室を開催し、 「エアロビクス教室」を南 部地区3回、北部地区3回 開催した。また、教室終了 後、次年度以降のスポ ーツ教室の参考とするため、参加 者から開催時期や時間、内 容等の要望や教室の実施 方法に関するアンケート調査を 行った。	参加者の健康増進へ の意識高揚につながっ た。 北部地区 (瀬良垣公民館にて実施) 延べ19名 計3回 南部地区 (山田公民館にて実施) 延べ25名 計3回	事業を継続しアン ケート調査の結果を踏ま え、開催時期やメニュ ーを講師やスポーツ推 進委員と検討し実施 する。	A	①現状の内容 で継続
(壮年バレーボール) No.1-3	壮年層の村民に対 し、スポーツをする機 会を提供し、交流をと おして健康増進を図 る。	事業を継続し、スポ ーツをする機会を提供 し、交流をとおして健 康増進を図り、参加チ ームを増やすように努 める。	スポーツ推進委員定例 会で大会運営の調整及び 教育委員会年間行事予定 により周知活動を行った。	参加チームが前年度 より多く事業を行うこ とが出来た。 参加チーム：8チーム (R5年6チーム)	事業を継続し、ス ポーツをする機会を 提供し、交流をと おして健康増進を図 り、参加チームを増 やすように努める。	A	①現状の内容 で継続
(壮年フットボール) No.1-4	壮年層の村民に対 し、スポーツをする機 会を提供し、交流をと おして健康増進を図 る。	事業を継続し、スポ ーツをする機会を提供 し、交流をとおして健 康増進を図る。	スポーツ推進委員定例 会で大会運営の調整及び 教育委員会年間行事予定 により周知活動を行った。	参加チームが前年度 より多く事業を行うこ とが出来た。 参加チームに大会運 営協力をしてもらい、 スムーズな大会運営が できた。 参加チーム：14チーム (R5年度10チーム)	事業を継続し、ス ポーツをする機会 を提供し、交流をと おして健康増進を 図る。	A	①現状の内容 で継続

				(R4 年度 13 チーム)			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和 6 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和 6 年度の取組み)	事業の成果 (令和 6 年度の成果)	今後の課題 (令和 7 年度の課題)	評価	総合判断
スポーツ推進委員の 資質向上 (渡久地) No.2	各種スポーツの振興 と普及活動を支援し、 スポーツ推進委員個々 の資質の向上を促す。	引き続き、県や中頭 地区での研修への積極 的な参加を促し、委員 の資質向上に努めると ともに、研修の成果を 各委員が自主的に発揮 するよう村各種事業を 企画・運営する。	県や中頭地区での研修 に積極的に参加した。 また、村や中頭地区で行 われる大会や研修をスポ ーツ推進委員自ら企画し 実施した。 村研修:11 月(サイクリン グ・モルック・フレスコボ ール)	スポーツ推進委員活 動数及び内容 ・第 48 回壮年ソフトボ ール大会 (10 名) ・第 41 回壮年バレーボ ール大会 (10 名) ・第 53 回村少年野球大会 (5 名) ・第 23 回小学生駅伝大会 (6 名) ・その他、定例会・研修等 令和 6 年度:202 名 (令和 5 年度:294 名)	引き続き、県や中 頭地区での研修へ の積極的な参加を 促し、委員の資質向 上に努めるととも に、研修の成果を各 委員が自主的に発 揮するよう村各種 事業を企画・運営す る。	A	①現状の内容 で継続
恩納村スポーツ協 会、国頭郡体育協会 の活動支援 (渡久地) No.3	恩納村及び国頭郡の 体育協会に補助金を交 付し、その活動を支援 することによりスポ ーツの振興を図る。	引き続き体協主催の 事業展開及び体育施設 の利用等の支援を継続 し、各種目の競技力向 上とスポーツ振興を支 援する。	スポーツ振興、競技力向 上に繋がるような事業展 開の提案、施設の有効活用 (各字体協の練習会場の 調整)等の指導助言を行っ た。	国頭郡大会において ソフトボール、男女バドミ ントン、男子バレー、ラグビー、 ボウリングなどで優秀な 成績を収めた。 ・ソフトボール 優勝 ・男女バドミントン 優勝 ・男子バレー 準優勝 ・ラグビー 準優勝 ・ボウリング 準優勝 ○恩納村スポーツ協会 5,713,000 円(決定額) 4,563,329 円(確定額) ○国頭郡体育協会 2,384,434 円(決定額) 989,366 円(確定額)	引き続きスポ ーツ協会主催の事業 展開及び体育施設 の利用等の支援を 継続し、各種目の競 技力向上とスポ ーツ振興を支援する。	A	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
村立小学校体育施設 (プール)の一般開 放事業 (渡久地) No.4	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。	安全なプール開放事業が行えるよう関係部署と調整し事業を実施していく。	プール管理人と連携しこまめに水分補給や休憩を取るよう、利用者へ促した。また、天気の変化に伴って開放を中止したこともありその都度、村HPを活用してお知らせを行った。	夏休みプール開放事業利用延人数(前年度)全校:269名(233名)安富祖:21名(10名)恩納:66名(69名)仲泊:52名(67名)山田:130名(87名)	夏休みプールの一般開放を行い、熱中症予防や事故防止対策をプール管理人と連携しながら行い、安全なプール開放を実施する。	B	①現状の内容で継続
各種団体等県外派遣 補助事業 (渡久地) No.5	村民のスポーツに対する意欲を向上させ、各種球技、競技の振興を図る。	引き続き事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集を行うとともに、学校や公民館等と連携し、速やかな申請手続きを促す。	派遣事業に該当する団体の情報収集、学校や公民館への情報提供、周知徹底に努めた、速やかな申請手続きを行った。	○小中学生(前年度) ・自転車 1件(0) 個人1件(1) ・トランポリン 1件(0) 個人1件(0) ・レスリング 1件(0) 個人1件(0) ・陸上 2件(1) 個人1件(1) 団体1件(0) ・バドミントン 1件(1) 団体1件(1)	引き続き事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集を行うとともに、学校や公民館等と連携し、速やかな申請手続きを促す。	A	①現状の内容で継続
村体育施設維持管理 事業 (渡久地) No.6	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	令和5年度に策定した機能強化整備計画にて計画した整備を実施していくので引き続き関係部署や機関と連携し事業を実施していく。 また施設の維持管理徹底とプロ野球やスポ	機能強化整備計画にて計画した通信等整備工事や転落防止柵設置工事を行った。 施設利用率向上に向けて施設維持管理徹底の指導や、定例ミーティングを行い問題解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理	令和6年度利用者117,560人 利用回数(2,648回) 令和5年度利用者126,272人 利用回数(2,259回) 令和4年度利用者98,356人 利用回数(2,311回)	機能強化整備計画にて計画した整備を実施していくので引き続き関係部署や機関と連携し事業を実施していく。 また施設の維持管理徹底とプロ野球やスポーツ合宿等の受	A	①現状の内容で継続

		ーツ合宿等の受入れを含め、利用者に安心して施設を提供できるよう努めていく。	側との意思疎通を図った。	令和 3 年度 利用者 51,856 人 利用回数（1,670 回）	入れを含め、村と指定管理者で綿密に連携する。村民等が活用しやすい施設運営や環境を提供する。		
--	--	---------------------------------------	--------------	--	---	--	--

(4) 「幸せに生きる力」育成・支援委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
地域学習塾支援 (本山・與那覇) No.1	「幸せに生きる力」育成・支援委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら知・徳・体の子どももの育成を図る。	全自治会において地域塾を開催できるよう支援する。	区長会にて開催依頼を行い周知を図った。その際、昨年度の開催内容の共有を図った。	地域塾を実施した自治会は昨年度11自治会から10自治会へと減少した。 内容は、学習支援や工作、自由研究、調理活動など各自治会の工夫が見られた。	各自治会の運営担当者の減少が課題となっている。	B	①現状の内容で継続
石狩市中学生交流 (與那覇) No.2	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	令和6年度は受け入れ年度となるため、しっかりと準備して事業が実施できるようにしていく。	石狩市の中学生を受け入れ実施できた。 コロナ禍以降で初めての受け入れとなり、新しく旅程のプログラムを組んだ。	約5年ぶりに受け入れできた。令和5年度にうんな中学校から派遣した生徒と交流できた。また、プログラムにバーベキューを入れ、生徒の保護者も招待し、生徒も保護者も大変素晴らしい交流、招待していただき、生徒同士の交流を私どももみれてとても良かったと意見をいただいた。 【参加者】 石狩市中学生 20名 石狩市引率者 6名 うんな中学生 18名 うんな中保護者 6名 恩納村教育委員会 10名	令和7年度は派遣年度となるため、しっかりと準備して事業が実施できるようにしていく。 また他市町村の交流も増えている為、令和7年度は石狩交流事業から交流事業に変更する。 (他予定:長野県川上村、石川県能美市、広島県坂町)	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
講演会 (本山) No.3	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	「恩納村教育ビジョン」に基づいた村全体としての講演会を開催する必要がある。	単元内自由進度学習に関する講演会を県外研究者を招聘し全教職員対象に開催した。	全教職員が講演会に参加することで、全小中学校で自由進度学習に取り組むことができた。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づいた村全体としての講演会を開催する必要がある。	A	①現状の内容で継続
県外先進地視察研修 (本山・喜久里) No.4	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	継続して県外先進地視察研修を実施し、本村教育ビジョンの推進を図る必要がある。	石川県加賀市立小中学校へ、新任管理職、研究主任、指導主事で視察訪問を実施した。 埼玉県戸田市立戸田東小中学校へ、STEAM 教育担当、教育委員会関係者で視察訪問を実施した。	県外先進地視察を通して、「自由進度学習」を全小中学校で実践することができた。また、山田小学校、安富祖小学校が研究発表を行い、村内学校の授業改善につながった。	継続して先進地視察を実施し、恩納村教育ビジョンの着実な推進につなげる必要がある。	A	①現状の内容で継続
育成・支援実践報告会 (本山・喜久里) No.5	恩納村学力向上推進の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。	「恩納村教育ビジョン」に基づいた実践報告会を開催していく必要がある。	村全体研修会や各学校の校内研修会において、恩納村教育ビジョンの取組に対し伴走支援を行った。	各学校区で「恩納村教育ビジョン」に基づいた実践報告会を開催することができた。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づいた実践報告会を開催していく必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
諸検定料支援 (與那覇) No.6	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。	受験者数は小学校増、中学校が減になった、合格率は小学校減、中学校増になった。引き続き自分の実力にあった級を受験するよう伝えていく。 また、学校では受験料の返金が業務の負担になっているので、改善に向けて取り組んでいく。	準2級以上の返金事務を、返金の際は教育委員会のシステムで報告し、教育委員会から返金するよう改善した。 チラシを作成し、配布した。配布する際に、まずは自分の実力にあった級を受験することを学校側から伝えるようお願いした。	検者数（合格者数） 【英検】 小学校 33 名（16 名） （合格率 48.5%） 中学校 201 名(99 名) （合格率 49.3%） 【漢検】 小学校 252 名（151 名） （合格率 59.9%） 中学校 106 名(28 名) （合格率 26.4%） 【数検】 小学校 99 名(78 名) （合格率 78.8%） 中学校 33 名（17 名） （合格率 51.5%） 総受検者数（前年度） 合格率（前年度） 小学校:384 名(543 名) 63.8%（63%） 中学校:340 名(357 名) 42.4%（50%） 私立：55 名（14 名） 25.5%（－%） 全体：779 名（900 名） 51.7%（58%）	受験者数は小学校減、中学校も減になった、合格率は小学校微増、中学校減になった。引き続き自分の実力にあった級を受験するよう伝えていく。 また、教員の働き方改革により、検定事務を小学校で行わない事になり、さらなる受験者減が想定される。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
未来塾 (本山・與那覇) No.7	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	「自立した学習者」を育成するために、生徒が目標を立て、学習プランを作成し、定期的に振り返るサイクルを確立する必要がある。	講師事前説明会、生徒オリエンテーションにおいて、学習プランワークシートの共有を図り、活用を促した。	名桜大学との連携のもと、希望する生徒への学習環境を保障することができた。 令和6年度受講者数 1年：10人 2年：12人 3年：48人 参加生徒進学率 令和6年度：100%	「自立した学習者」を育成するために、通常の未来塾学習の他に、高校進学や大学進学、キャリア形成に向けた若手経営者等の講師による講演会を開催する必要がある。	A	②事業を拡大して継続
スキルアップ研修 (本山・喜久里) No.8	各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内教職員職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	「恩納村教育ビジョン」に基づく各プロジェクト会の充実を図る必要がある。	各小中学校の「自律」「協働」「創造」のプロジェクトメンバーによる対話型の研修会を開催した。	「自律」プロジェクトにより「自由進度学習」の推進、「協働」プロジェクトにより「児童会・生徒会活動」の充実、「創造」プロジェクトにより、「探究的な学び」の推進が図られた。	継続して「恩納村教育ビジョン」に基づく各プロジェクト会の充実を図る必要がある。	A	①現状の内容で継続
各種コンクール (本山・與那覇) No.9	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	各種作品募集の多さによる学校負担を軽減するために、募集テーマの精選を図る必要がある。	募集テーマを「学校給食ポスター・作文・標語」とし、「あいさつ作文・標語」の募集を取りやめた。	県働き方改革プランに即した対応ができ、学校職員の負担軽減につながった。	「学校給食ポスター・作文・標語」の役場ロビー展示を給食週間に合わせる必要がある。	A	①現状の内容で継続

(5) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
博物館運営 (崎原) No.1	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	継続して博物館活動の情報発信を行うと共に自然ゾーンの創設に取り組み、博物館活動の活性化を図る。 また、社会教育施設として安心・安全に利用して頂けるように施設不備箇所の修繕等を行い、利用しやすい施設を目指す。	・企画展や各種講座などの事業実施に際し、SNSやLINEや博物館HPを活用し広報を実施した。 ・継続して村内関係団体と連携して、サンゴの村宣言や自然環境など役場関係課と連携し事業を実施した。 ・うんな中での出前講座(座学・野外学習)をはじめ、村内学校への出前授業では創意工夫を行い、実施し、内容の充実を図った。 ・継続して社会教育育成団体の活動支援を行い、村民の施設使用の増加を図った。 ・村内学校を中心に県内の学校などの授業等受入及び連携を図った。 ・より利活用しやすい施設とするため博物館入りロサイン制作及びトイレ、	・博物館利用実績 開館日数 293 日 博物館利用者数 16,584 人 (前年度 14,215 人 2,369 人増) 入館者 14,262 人 (前年度 11,584 人 2,678 人増) 施設等使用者 2,312 人 前年度施設等利用者 2,631 人 319 人減 ・主に文化係(博物館・文化財)で1回の特別展、6件の講座等を開催した。 施設利用団体数 延べ 182 件(前年度 187 件) ・村内学校の受入対応、出前授業 計 20 件 (学芸 14 回、文化財 2 回) 職場体験 2 件 ・多言語を盛り込み、入口表示をしたことで利用者から好評でした。	リニューアル事業に伴う自然展示室の創設及び村内各学校への出前講座や展示会、各種文化講座などにより地域の特色ある文化活動の情報発信を行えるよう、博物館活動の活性化を図る。	A	①現状の内容で継続

			防水修繕などに取組んだ。 ・防災の日のイベントをおんなの駅・役場、博物館・文化情報センターで連携して各種イベントに取り組んだ。 連携事業として博物館では、南相馬市の津波や村の防災取り組みなどを紹介する展示会を実施。	・防災イベントとして展示会及び協働で事業を実施した。11月4日イベント日には340名もの来館者があり盛況。 企画展「3. 11 写真展」、期間：10/31～11/10（9日間） 来場者：747名			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取り組み (令和6年度の取り組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
企画展・展示会 (後藤・吉田) No.2	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。	常設展示の一部リニューアルを実施するため、企画展事業の回数を減らす予定だが、実施を予定する慰霊の日特別展では新資料の展示に取り組む。	主催事業 ①令和6年度慰霊の日特別展「恩納村と戦争」 学芸担当の展示では、これまであまり展示実績の無かった『陸海編合図』『琉球群島（其ノ二）』の展示及び、資料調査をとおして、沖縄国際大学南島文化研究所が所蔵する同シリーズの他地域地図、沖縄市立郷土博物館が所蔵する戦後の米軍作成地図など類例・比較資料と合わせて展示した。	主催事業 ①令和6年度慰霊の日特別展「恩納村と戦争」 期間：5/28～7/7（36日間） 来場者：1,935名 ※前年度29日間、1,327名	2025年は戦後80年を迎えるため、総務課村史編さん係と共同で、これまでの慰霊の日特別展の展示成果の集約した冊子の作成と展示会を開催する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
博物館講座 (後藤・吉田) No.3	博物館主催の講座を ととして、村民に村の 自然、歴史、文化につい ての理解を深める場を 提供する。	引き続き、OIST など と連携した講座の実施 や村の特性を生かせる ような講座を企画し、 実施していく。	①博物館・OIST 連携事業 「クマノミの世界をのぞ いてみよう！」 OIST 地域連携セクシ ョンのコーディネーター の協力を受け、研究者によ るクマノミ研究と海に関 する講座・ワークショップ を行った ②自然観察会「第3回サ ンゴの産卵観察会」 夜間にシュノーケリン グによるサンゴの産卵観 察会を実施。今回はサンゴ の産卵後に海中を卵が浮 遊する様子を実際に観察 することができた。 ③夏休みイベント「昆虫 標本作りにチャレンジ！」 夏休みの自由研究の支 援の一環として実施。身近 な昆虫(セミとチョウ)の 標本を作るワークショッ プを実施した。 ④博物館講座「ウミガメ のヒミツを知ろう！ーウ ミガメの一生ー」	①博物館・OIST 連携事 業「クマノミの世界をの ぞいてみよう！」 開催日：5/3 参加者：子ども15名、 大人4名(定員30名) ②自然観察会「第3回サ ンゴの産卵観察会」 開催日：6/13 参加者：保護者8名、子 ども8名、一般5名(村 民限定) (定員：親子枠20名、一 般5名、当日4名欠席) ③夏休みイベント「昆虫 標本作りにチャレンジ！」 乾燥標本コース 開催日：8/4 参加者：5名(定員5名) 樹脂標本コース 開催日：8/4、10、11日 (3日間) 参加者：5名(定員5名) ④博物館講座「ウミガメ のヒミツを知ろう！ーウ ミガメの一生ー」	人気の講座に ついては継続す るとともに、村の サンゴの村宣言 やSDGsプロジェ クトの普及啓発 に貢献できる講 座を企画し、実施 していく。	A	①現状の内容 で継続

			恩納村内でも産卵が確認されているウミガメの学習をとおり、環境保全の啓発を図った。 ⑤博物館講座「トウツルモドキでカゴ作り」 村内に自生するトウツルモドキを利用し、カゴを作るワークショップ。	開催日：9/22 参加者：子ども 11 名、大人 7 名 (募集定員：30 名) ⑤博物館講座「トウツルモドキでカゴ作り」 開催日：12/14、15 参加者：11 名 (募集定員 10 名、応募数 35 名)			
事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和 6 年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和 6 年度の取組み)	事業の成果 (令和 6 年度の成果)	今後の課題 (令和 7 年度の課題)	評価	総合判断
サンセットコンサート (後藤) No.4	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	令和 6 年度はリニューアル事業のため、見合わせ予定。 その後は村内芸能等の活用や村民に優れた音楽や芸能の鑑賞機会を提供できる企画を実施する。	令和 6 年度は展示リニューアル事業優先のため、取り組みなし		令和 7 年度は関係者の意見や前回までのアンケート内容を参考にし、村民が村内で優れた音楽等に触れる機会を創出する。	—	①現状の内容で継続
『恩納村博物館年報・紀要』の刊行 (後藤・吉田) No.5	博物館の過年度の活動に関する情報をまとめることで、記録を残し、将来的な資料とする。『恩納村博物館紀要』と『恩納村博物館年報』を隔年にて発刊	次年度は『恩納村博物館年報』の刊行を予定。令和 4・5 年度の博物館活動についてまとめた年報を刊行する。	一部体裁を見直すなどし、掲載情報の整理を図り、ページの節減を図った。	『恩納村博物館年報』第 14 号を刊行した。 令和 4・5 年度の博物館事業、文化財事業についての報告を掲載した。	次年度は『恩納村博物館紀要』の刊行を予定 恩納村の自然、歴史、文化にかかわる原稿を募集する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
地域伝統芸能等保存事業 (後藤) No.6	一般財団法人地域創造の事業を活用し、地域に伝承される伝統芸能等の映像を記録することにより、今後の更なる伝統芸能の伝承及び地域活動を支援する。	令和7年度の事業実施に向け、一般財団法人地域創造に助成申請を行う。	村区長会総会で令和7年度の事業説明を行い、実施を希望する自治会を募った。 南恩納区から豊年祭の映像記録実施の要望があったため、ヒアリング後、令和7年度分の助成申請並びに事業費計上を行った。	一般財団法人地域創造より、令和7年度分の事業助成の内定を受け、事業費を予算化した。	南恩納区と連携し、助成事業の成果品を完成させるとともに、地域の踊りや組踊の型の保存・継承を支援する取り組みとする。	A	①現状の内容で継続
常設展示室リニューアル事業 (後藤) No.7	開館20周年の節目を機に、既存の常設展示に加え、自然史分野の展示を発展・充実させた常設展示の再構築のため、「自然ゾーン」を新設し、博物館活動の更なる発展を図っていく。	展示検討委員会の助言を受けながら、常設展示の一部をリニューアルし、自然ゾーンを新設する。	・基本計画に基づき、展示検討委員会にて展示物やレイアウトについての検討を行い、展示製作に取り組んだ。 ・常設第2展示室の設備の改修工事や展示ケースの新規製作などを実施した。	令和7年度の自然ゾーンのオープンに向け、設備を調べるとともに、展示する標本の製作や展示物の確認などを行った。	常設第2展示室の自然ゾーンの展示を完成させ、常設展示の一部リニューアルを完了させる。	B	①現状の内容で継続
文化財普及事業(仲嶺) No.8	恩納村の共有財産である文化財の普及及び活用を目的とし、文化財保護愛護思想の啓発を図る。	山田城跡のパンフレット制作や土器作り講座を実施し、文化財愛護思想の普及を図る。 また、ボランティアガイド養成講座を実施する。道の会や観光協会等の外部団体と連携し、ガイド養成の充実を図る。	① 慰霊の日展示会 文化財、学芸、村史の3係合同の展示会を開催 村内遺跡発掘調査や踏査等で収集した遺物等を遺跡解説パネルとともに展示し、実際に遺物を触れるハンズオンコーナーも設けた。 また、新たに塩屋区で不時発見された壕について	①慰霊の日特別展「恩納村の戦争」 期間：5/28～7/7 (36日間) 来場者：1,935名 ※前年度29日間、1,327名	次年度は戦後80年となるため、学芸担当や村史編さん係と情報共有を行い、違う視点を持った展示を行う。	A	①現状の内容で継続

			も速報展示を行った。 ②土器作り講座(全3回) 土づくり～土器焼きまでの体験講座の実施 目標人数：20名 ② 村内学校出前講座 文化財巡りを実施 山田城跡パンフレット作製に取り組んだ 文化財ボランティアガイド養成講座に取り組んだ	②土器作り講座(全3回) 1 土作り(11/23)19名 2 土器作り(11/24)19名 3 土器焼き(11/30)15名 ※応募は定員20名に達したが、当日キャンセルにより、参加人数が減した日がある。 ② 村内学校出前講座 計2件対応 延べ人数：119名 山田城跡パンフレット5,000部作製 文化財ボランティア講座の講師及び道の会と調整を行ったが日程調整がつかず断念した。			
--	--	--	---	---	--	--	--

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
山田城跡重要遺構確認調査 (仲嶺) No.9	国指定史跡山田城跡の整備に向けて取り組む。	山田城跡重要遺構確認調査として令和5年度の未実施箇所及び引き続き山田城城壁の発掘を実施し情報蓄積を行う。	文化庁補助事業を活用し、継続して山田城跡重要遺構確認調査を実施した。3箇所の調査に取り組む。	山田城跡重要遺構確認調査を実施した。令和6年度は3箇所の調査を実施。石積みの検出をし、城壁の現状と構造を確認。整備に向けた基礎情報の蓄積を図った。	山田城跡重要遺構調査を引き続き実施する。令和7年度は城壁の発掘調査を7箇所実施する。	B	①現状の内容で継続
沿岸・水中遺跡分布調査 (崎原) No.10	文化庁補助事業を活用し、埋蔵文化財の把握と周知・保護のために村内の沿岸及び水中遺跡を調べる分布調査に取り組む。	新規事業	村内北側の名嘉真から恩納（太田）地区までの沿岸部および海域部分における分布調査に取り組む。	対象地の沿岸部の踏査の結果、新たに700年前の陶磁器や地域で利用された石切場跡、木造船などを発見している。海底調査でも加工された石などを確認することができた。	令和7年度は、恩納地区から富着地区までの範囲で分布調査を実施する。また、併せてこれまで調査した資料整理を実施する。	A	①現状の内容で継続
山田城跡公有地化事業 (崎原) No.11	山田グスクの公有地化事業を実施し、指定地内7割以上の公有化に取り組む。 指定地面積 43,132.37 m ²	地権者未相続土地について、相続権者と調整し、補助事業を活用して公有地化事業を実施する。	文化庁補助金を用いて公有地化事業を継続して実施した。5箇年計画で指定地の70%を公有地化にする取り組み。 R2 10,974 m ² 公有地化(40%達成) R3 8,245 m ² 公有地化(59%達成) R4 5,244 m ² 公有地化(71%達成) R5 4,337 m ² 公有地化(81%達成) R6 0 m ²	令和6年度は指定地内7筆(民有地1,830 m ²)の公有地化事業を対象とした。相続権者と協議したが相続手続きができず、不動産鑑定業務のみの実施となった。 相続権者17名の内、親族の協力を経て13名内諾を得たが4名に連絡が取れずやむを得ず、断念せざるを得なかった。 公有地化済 35,112.37 m ² (81%)	地権者未相続土地について、相続権者と調整し、相続後に補助事業を活用して公有地化事業を実施する。 令和7年度は相続権者に協力調整をし、今後の協力を求める。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
恩納村文化財指定業務 (仲嶺) No.12	村内に所在する貴重な文化財の中から村指定候補を調査、検討し村指定文化財の増加を図る。 恩納村指定文化財 ① 史跡 真栄田の一里塚 ② 有形文化財(民俗) 浜崎御嶽、カンジャガー、 ウヰイガマ、南恩納の龕 ③ 歴史資料 唐人墓の墓碑、恩納村の印部石、国頭郡恩納間切各村全図及び字図等 ④ 書跡 徐保光詩文、王文治詩文 計 10 件	指定文化財候補を検討し、文化財保護審議委員会で審議をし、村指定文化財増加にむけ取り組む。	村指定文化財増加に向け各集落の指定候補となる文化財の情報収集を実施する。また、恩納村文化財保護審議会にて指定候補となる文化財について審議・報告を行う。	塩屋の公民館建設に伴い、戦争遺跡(防空壕)が発見された為、慰霊の日展示会で速報展示を実施し情報収集を図った。また、恩納村文化財保護審議会へ不時発見された壕の報告を実施した。	指定候補となる文化財リストを作成し、リストにある文化財について情報収集を実施する。	B	①現状の内容で継続
万座毛植生環境整備事業 (仲嶺) No.13	沖縄県補助金を活用し万座毛遊歩道地区の整備を実施する。	新規事業	令和6年度より県補助金を活用し、万座毛景観修復整備計画書にある遊歩道地区第一工区(約 1050 m ²)の測量及びアダンの伐採除去・シバ移植を実施する。	県補助金を活用し遊歩道地区第一工区(約 1050 m ²)の測量及びアダンの伐採除去・シバ移植を実施した。また、実施するにあたり、関連法令(文化財保護法、自然公園法、森林法)の許可を得ることができた。	第一工区アダン伐採箇所からシバを移植した範囲にアダンが侵入しないよう定期的にモニタリングを行い、侵入が確認されたものについては伐採を行う。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
各種団体への活動支援 (崎原) No.14	文化教育分野で活動する恩納村文化協会に補助金を交付し、文化に関する各種団体の活動を支援することにより文化の振興を図る。	引き続き、村文化協会の活動を継続して支援する。	今年度も文化協会総会への参加、文化祭、文化展への協力を実施。 必要に応じて、指導・助言を行った。	文化協会の事業実績に基づき精査して補助額を確定した。 ○恩納村文化協会 3,520,000 円（決定額） 3,245,045 円（確定額）	引き続き、村文化協会の活動を継続して支援する。	A	①現状の内容で継続

(6) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断																								
栄養教室の開催 (比嘉) No.1	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。 【学校給食の目的】 ①適切な栄養の摂取による健康の保持増進をはかること。 ②日常生活における食育について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。 ③学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。 ④食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。	継続して各学校と連携して、食育年間指導計画を作成し食育指導を行う。	県教育委員会から給食センターに配置されている栄養職員で巡回指導、食育授業を行った。 給食週間に役場ギャラリーでパネル展示及び各学校へ展示物、動画の配布を行った。 食育授業 <table><tr><td>恩納幼稚園</td><td>1回</td></tr><tr><td>山田小学校</td><td>7回</td></tr><tr><td>仲泊小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>恩納小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>安富祖小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>うんな中学校</td><td>4回</td></tr></table> (前年度) <table><tr><td>仲泊幼稚園</td><td>1回</td></tr><tr><td>安富祖幼稚園</td><td>1回</td></tr><tr><td>山田小学校</td><td>5回</td></tr><tr><td>仲泊小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>恩納小学校</td><td>6回</td></tr><tr><td>安富祖小学校</td><td>6回</td></tr></table>	恩納幼稚園	1回	山田小学校	7回	仲泊小学校	6回	恩納小学校	6回	安富祖小学校	6回	うんな中学校	4回	仲泊幼稚園	1回	安富祖幼稚園	1回	山田小学校	5回	仲泊小学校	6回	恩納小学校	6回	安富祖小学校	6回	巡回指導、食育授業を実施し、食の大切さや食に対する関心を持つことができた。	継続して各学校と連携して、食育年間指導計画を作成し食育指導を行う。巡回指導を増やし更なる食育指導の充実を図る。	A	①現状の内容で継続
恩納幼稚園	1回																														
山田小学校	7回																														
仲泊小学校	6回																														
恩納小学校	6回																														
安富祖小学校	6回																														
うんな中学校	4回																														
仲泊幼稚園	1回																														
安富祖幼稚園	1回																														
山田小学校	5回																														
仲泊小学校	6回																														
恩納小学校	6回																														
安富祖小学校	6回																														

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
	⑤食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについて理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。 ⑥我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。 ⑦食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。						
村産食材の積極的な活用 (比嘉) No.2	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	今後も継続して安定的な食材の確保のため、おんなの駅、農水関係者と連携を図る。 畑を巡回し生産者との連携を図る。	年間を通して、地場産物を使用した。 毎月19日の「食育の日」に、モズク、アーサ等地元の食材を使った給食を提供し、地産地消の推進を図った。 更なる地産地消に向け、おんなの駅と連絡会の開催や農家を巡回し意見交換を行い地産地消に取り組んだ。	おんなの駅や農水関係者と連携を図り地場産物を提供することが出来た。 安富祖米の不作により年間使用量 4,535 kg 年間使用率 44.23% に留まった。 令和5年安富祖米使用率 99.7% (10,645 kg) モズク年間使用料 251 kg アーサ年間使用料 100 kg	おんなの駅、農水関係者と定期的な連絡会の開催や農家を巡回し意見交換を行う。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和6年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和6年度の取組み)	事業の成果 (令和6年度の成果)	今後の課題 (令和7年度の課題)	評価	総合判断
給食センター見学の推進 (比嘉) No.3	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	今後も継続して見学実施にむけた行事調整を行う。	給食センター見学受け入れを行った。 【見学実施日】 6/17 恩納幼稚園 7/16 恩納小2-1 9/18 恩納小2-2	調理場見学を実施し、給食が出来るまでの工程を理解し、給食に対する関心を持つことが出来た。	今後も継続して日程調整を行い見学受け入れを行う。	B	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上 (比嘉) No.4	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。 【学校給食費】 (保護者負担) ○学校給食法 第11条第2項 (督促手続き) ○民事訴訟法第382条	今後も継続して、長期未納者への納付指導、納入計画の提案を行う。 不納欠損処理の検討。	過年度未納者に対し電話督促、督促状の送付を行った。 不納欠損処理について他市町村の情報収集を行った。	○現年度分徴収率 ※収入額 令和6年度：96.85% 令和7年3月28日 ※現年度納付額 7,901,455 円 ○過年度分徴収率 令和6年度：9% ※過年度納付額 42,800 円 令和5年度：27% <u>18%減</u> 令和7年3月28日	今後も継続して、長期未納者へ面談等納付指導、納入計画の提案を行い自主納付を促す。 不納欠損処理の検討。	C	①現状の内容で継続

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成委員及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会(令和7年7月8日現在)

役 職	氏 名	任 期	備 考
委 員 長	星 野 文 彦	令和7年7月8日～当該年度の事務事業外部評価完了まで	元村 PTA 連合会会長
副 委 員 長	小 谷 久 美	令和7年7月8日～当該年度の事務事業外部評価完了まで	元村婦人会会長
委 員	大 城 敦	令和7年7月8日～当該年度の事務事業外部評価完了まで	元行政区区長

(2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、令和7年7月8日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受け、評価を行いました。また7月17日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行いました。その結果を答申いたします。

記

① 点検評価報告書について

教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、課長及び担当者から事業評価の説明を受け、事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認した。

また、村民の生涯学習を視点とし学校教育、社会教育関係事業について事務事業の点検及び評価を行った。点検評価において委員からあった意見・提言については、今後の事業に反映させ、更なる教育行政の充実を図っていただきたい。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要である。成果の見えにくいといわれる教育行政について、常に点検や評価を繰り返すことが重要と考え、更に教育行政への村民ニーズを的確に捉えた事業の実施に繋げていけるよう努力を促したい。

この評価結果につきましては、次年度以降の事業の取り組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、活用していただきたい。

② 事務事業の評価について

令和6年度事業評価においては、事業数69件の事務事業の外部評価を点検した。取組み内容や事業成果においては、全体的に評価は概ね妥当だと理解している。また、各事業の実施においては、例年の課題である対象者への事業の効率的な周知のあり方や村民ニーズに合った事業内容については、最大の事業効果が得られるよう、対象事業について内容は勿論のこと、参加者が増える更なる工夫や対策を講じていただきたい。なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見・提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関連所管事業の22事業においては、教育振興備品整備事業(No.11)について、整備した備品（ICT機器）の活用を促進するため、ICT支援業務を業者委託により各学校へ支援員を配置し、支援体制を整備したことにより、全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙によりICT機器をほぼ毎日活用したとの結果が小学校・中学校共に県の全体の使用率を上回ったこと、高校生通学等支援事業補助金(No. 22)については、恩納村独自の新規事業であり、これまで支援の届

いていなかった高校生の通学費等を支援することにより経済的な負担軽減を図ることができ、延べ 188 人の支援実績を評価し、S 評価とした。

教育委員会研修事業 (No.1)、コミュニティースクール設置事業 (No.2)、校長会・教頭会 (No.3)、教育相談事業 (No.4)、教育委員会学校計画訪問 (No.5)、奨学資金給付・貸与事業 (No.6)、キャリア教育事業（職場体験学習・職場見学） (No.7)、幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業 (No.9)、幼稚園教育の推進 (No.10)、就学支援事業 (No.12)、スクールカウンセラー設置事業 (No.13)、特別支援員配置事業 (No.14)、英語指導助手派遣事業 (No.15)、対外競技派遣及び中学校部活動支援事業 (No.16)、諸検査事業 (知能検査・進路適正検査・i-check 調査他) (No.17)、指定研究事業 (No.18)、うんな中学校 S D G s プロジェクト (No.21) の 17 事業については、前年度の課題を踏まえ課題克服の取り組みが行われ、予定通り事業を実施でき、前年度以上の効果が散見できたため A 評価とした。

幼稚園教諭研修会 (No.8)、小中学校施設整備事業 (No.19)、学校施設維持管理事業 (No.20)、の 3 事業については、前年度の課題を踏まえた取組が行われ概ね予定通り実施できたため B 評価とした。

各事業においては、更に工夫を重ね充実した事業を実施し、更に高い質の学校教育事業を提供していただくことを期待したい。

社会教育関連所管事業の 12 事業においては、青少年団体等活動助成事業（4 団体） (No.1)、国際交流派遣事業 (No.2)、自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業 (No.3)、二十歳を祝う集い事業 (No.4)、社会教育教室（うんな大学） (No.5)、いきいき女性教室 (No.6)、地域リーダー研修 (No.7)、人材育成激励金支給事業 (No.10)、各種団体への活動支援 (No.11)、文化情報センター業務 (No.12) の 10 事業については、前年度の課題を踏まえ課題克服に向けた取り組みを行い、村民からの要望に基づき教室を開催し、実施団体や参加人数が増加したため、A 評価とした。

楽らく子育て教室 (No.8) については、前年度の課題である男性の参加がなく B 評価とした。

公民館講座 (No.9) については、予定していた 6 講座中 2 講座のみの開催となったため C 評価とした。自治会等が更に利用しやすくする工夫を検討していただきたい。

社会体育関係所管事業の 9 事業においては、各種社会体育事業の充実事業のウォーキングフェスタ (No.1-1)、スポーツ教室 (No.1-2)、壮年バレーボール (No.1-3)、壮年ソフトボール (No.1-4)、スポーツ推進委員の資質向上 (No.2)、恩納村スポーツ協会、国頭郡体育協会の活動支援 (No.3)、各種団体等県外派遣補助事業 (No.5)、村体育施設維持管理事業 (No.6) の 8 事業について、前年度の課題を改善し参加者の拡大につながり目標通りの事業実施ができたことを評価し、A 評価とした。

村立小中学校体育施設（プール）の一般開放事業 (No.4) については、予定通り各小学校で実施できたが参加者が減少したことにより評価を B 評価とした。

今後は児童・生徒以外に一般にもプール開放できないか検討していただきたい。

「幸せに生きる力」育成・支援委員会事業の 9 事業においては、石狩市中中学生交流事業 (No.2)、講演会 (No.3)、県外先進地視察研修 (No.4)、育成・支援実践報告 (No.5)、諸検定料支援 (No.6)、未来塾 (No.7)、スキルアップ研修 (No.8)、各種コンクール (No.9) の 8 事業については、前年度の課題を踏まえ課題克服に向けた取り組みがなされ予定通りの開催ができたため A 評価とし、地域学習塾事業 (No.1) については、実施自治会が減少したため B 評価とした。

「恩納村教育ビジョン」に基づき、今後もより充実した内容で事業を実施し、幸せに生きる力の育成・支援に向けた効果のある事業展開を期待する。

博物館所管事業の 13 事業においては、博物館運営 (No.1)、企画展・展示会 (No.2)、博物館講座 (No.3)、『恩納村博物館年報・紀要』の刊行 (No.5)、地域伝統芸能等保存事業 (No.6)、文化財普及事業 (No.8)、各種団体への活動支援 (No.14) の 7 事業については、前年度の課題を踏まえ、課題克服に向けた取り組みがなされ予定通りの開催ができたため A 評価とした。

沿岸・水中遺跡分布調査 (No.10)、万座毛植生環境整備事業 (No.13) の 2 事業については、6 年度新規事業で、当初予定通り実施できたため A 評価とした。

地域伝統芸能等保存事業については、今回南恩納区の伝統芸能の映像の記録・保存を行うことで南恩納区との調整を行い申請に至った。伝統芸能を継承するため記録を残すことは、伝統芸能を継承する地域を盛り上げていくことにもつながることから、事業実施に力を入れて向け取り組んでほしい。

常設展示室リニューアル事業(No.7)、山田城跡重要遺構確認調査(No.9)、山田城跡公有地化事業(No.11)、恩納村文化財指定業務(No.12)の4事業については、概ね予定どおり実施できたためB評価とした。山田城跡公有地化事業については、所有者の相続権者のうち数名への連絡が取れない状況であるが多数の相続権者への協力が得られたことを評価した。山田城跡は整備に向けて準備が着々と進められているが、整備に向けて必要な調査を計画的に行い、基礎情報の更なる蓄積を図っていただきたい。

学校給食センター所管事業の4事業においては、栄養教室の開催(No.1)、について、前年度の課題を踏まえ、新たにうんな中学校も含めた食育授業もできたためA評価とした。

村産食材の積極的な活用(No.2)、給食センター見学の推進(No.3)、の2事業については、前年度の課題を踏まえた取り組みを行い概ね実施できたためB評価とした。村産食材の積極的な活用については、農作物の不作に伴い使用量が前年度を下回ったが、関係機関との連携を図り積極的な取り組みを行ってきた。今後においても生産者や関係機関との連携を図り積極的な村産品の活用に取り組んでほしい。

給食費徴収率の向上(No.4)については、過年度分の徴収率が前年度を下回ったためC評価とした。過年度分の未納額については、不納欠損処理も視野に取り組んでいただきたい。

③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないため、外部評価委員の意見が即効性をもって反映されるように、現年度事業の実施途中で中間的評価点検を取り入れ、実効性のある点検及び評価を行い、実施中の事業に反映されることが望ましい。又、事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題解決を要する事業については、その課題解決を事業目標に掲げ目標達成に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことが効率的な事業推進につながる。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、村民ニーズに合った高い事業目標を調査及び研究し、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていただければ、より効果的な事業展開が行われ、本村の更なる教育の充実と振興につながるものだと考える。これまでの事業評価で外部評価委員や教育委員から出た様々な意見や要望を、参考に取り組んでいただきたい。

全体的な事業評価として、前年度に対し、A評価が大きく増加し、B評価、C評価が減少していることは、大変喜ばしいことである。

最後に、今後なお一層の教育行政関係職員のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申とします。

④ 結びに

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思います。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善や効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。

令和7年8月